

平成23年9月14日

江別市生活環境部環境室環境課長  
五十嵐 工 殿

北海道アオサギ研究会 代表 松長克利  
住所 札幌市北区北16条西4丁目1-1  
電話 011-709-9099

### アオサギ営巣地の保全に関する要望書

平素は当研究会の活動にご理解をいただき、心より感謝いたします。

当研究会は全道レベルでアオサギの調査研究を行っていますが、中でも今回取り上げる元江別の営巣地は、都市域であるにもかかわらず人々がアオサギと身近に接することのできる希少な場所と考えています。そのため当研究会では、人と野性生物の望ましい関わり方を模索する上で格好のモデルケースと捉え、今シーズンもとくに重点的に調査して参りました。また、当営巣地はアオサギ地域個体群の保全の上からも注目しており、(1) 地域で核となるコロニーは優先的に保護すべきであること、(2) 放棄された場合には移動先の営巣地で人との間に摩擦が生じる可能性が高いという2つの理由から、当営巣地が放棄されるような事態は絶対に避けなければならないと考えているところです。

こうした事情を背景に、当研究会では今年の春、(1) アオサギ営巣地对岸の河川敷における観察可能ゾーンと進入禁止ゾーンの明確な区分け、(2) 進入禁止ゾーンへの立ち入りを規制する具体的措置の2点を江別市に要望いたしました。これについては、ロープおよび看板の設置で対応していただき、アオサギ営巣地の保全に対して繁殖成績の改善など一定の効果があつたと考えています。

しかしながら、対策を講じた後もロープを越えて営巣地に近づこうとする人が散見されており、それが原因でアオサギの営巣が著しく妨害(カラスによるヒナの捕食など)された例も実際にいくつか目撃されています。このことは、ロープおよび看板の効果が現状では限定的であることを示唆するものと考えます。

つきましては、アオサギ営巣地に対しより一層効果的な保全策をとられるよう要望いたします。当研究会では、具体的な対策として観察ポイントまでの遊歩道の設置が望ましいと考え

ています。遊歩道をつくることで、この場所が整備、管理された場所であることを示すことができ、不心得な人に対する心理的な抑止効果が期待されるものと考えます。また、最近は小学校から観察の問い合わせがあるなど、従来の自然愛好家だけに留まらず一般市民へ関心が広がる傾向が見られます。こうした状況に対応するためにも、遊歩道の敷設など最小限の環境整備は是非とも必要と考えます。

以上の件につきまして、ご検討いただき、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、遊歩道の敷設ルート案について別紙に記しました。